

留学だより

北摂総合病院 藤野 圭太郎 (平成 22 年入局)

2018 年夏より米国フィラデルフィアにあるペンシルバニア大学に留学し 1 年半が経過しました。皆様もよくご存知の通り、今や米国は世界最大のコロナウイルス感染国になり (2020 年 4 月時点)、ペンシルバニア大学は閉鎖され、全ての研究が中止となりました。閉鎖までの状況やその後のフィラデルフィアの様子は後ほど書かせていただきますが、現在私は多くの先生や家族の勧めもあり、本来夏までであった米国滞在期間をきりあげて 2020 年 3 月末に日本に帰国しています。

私はペンシルバニア大学で、Soslowsky 教授および Dymment 先生の 2 つのグループに所属し、主に臍と骨との付着部における再生過程に関する研究を行っていました。両研究室ともに、英語の拙い私に対して優しく、大学院生達から食事会に誘ってもらうなど、幸運なことにあまり疎外感を感じずに研究生活が送れました。全米でもトップ 5 に入る研究室だけあって、最新鋭の研究施設と豊富な資源、さらに各研究手技のスペシャリストが在籍しており、日本ではなかなかお目にかかることがない研究を数多く経験することができました。私は 1 年半動物手術とバイオメカの検査を主に担当していましたが、バイオメカの検査をするための部屋が 2 つ、置いてある機械も 10 種類を超え、まだまだ学ぶべきことは多かったように感じます。2 つのチームを行き来していたため、ありがたいことに教室のイベントも 2 倍楽しむことができました。例えば Soslowsky 教授の教室では、夏にはプールパーティー、冬にはアメリカンフットボールの試合を見ながら、クリスマスプレゼント交換を教授宅で行うことが恒例になっており、Dymment 先生の教室では夏はバーベキュー、



サマーパーティー、Dymment 先生宅にて

さらにメンバーの誕生日にはレストラン等でパーティーが催されることになっていました。さらに研究所全体で催されるイベントも加わり、恒例のイベントだけでも、チームと余暇を楽しむ機会は十分多かったと思います。

アメリカには美味しいものがたくさんありますが、特にお肉が美味しくて安かったため、毎週日曜日近くにあるリーディングマーケットという古い市場にある肉屋を訪れることを楽しみにしていました。豪快に塊で買って、準備した肉の裁断機でスライスして焼いてみたり、数え切れないほど種類のある、ソーセージやベーコン、ビーフジャーキーを片端から買っていき、ビールとの相性を試したりと、いい息抜きになっていたと思います。夏および冬には、まとまった休みをいただいて、家族とフィラデルフィア市内はもちろん、比較的近いニューヨーク、ワシントン DC、さらにデイズニーランドのあるフロリダまで遊びに行きました。時差ボケを気にせず、ゆっくりと米国観光できたことは、私にとっても、家族にとっても特別な思い出となりました。今年の



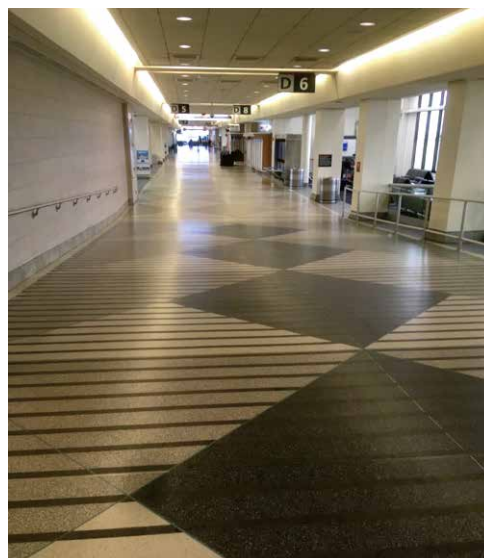
ニューヨーク 自由の女神像前

春休みにはアメリカ内陸部や西海岸への観光も予定していたのですが、残念ながらコロナウイルスの影響で中止となってしまいました。

今年の3月初旬まで充実した研究の日々を送っていたのですが、コロナウイルスがペンシルバニア大学およびアメリカの状況を一変してしまいました。多くのアメリカ人が感染の波が直前に迫るまで、あれほど楽観的に構えていたことが、今思えば不思議でなりません。実際大学が閉鎖される1週間前まで我々はずっと通り研究を行い、狭いカンファレンスルームに集まり宅配ピザを食べながら、研究報告会を開いていました。しかし3月13日アメリカで非常事態宣言が出されると、大学から労働時間の削減を指示され、その方法が定まらない内に3月15日に急に大学閉鎖の方針が決定され、3月17日に大学閉鎖、3月18日にはフィラデルフィア市内全域で、

生活に必要な店以外の営業が停止となり、あっという間にペンシルバニア大学およびフィラデルフィアの市内から人気が消えました。

私も多くの人に習い、1ヶ月以上マンションに籠城するつもりで水と食料を買い込んでいましたが、根尾教授をはじめ多くの方々に帰国を勧められ、さらに住んでいた地域の治安に不安もあり、結局は大学が閉鎖された翌週には日本に帰国することになりました。帰国時に利用したフィラデルフィア空港で、人のいなくなった通路を目の当たりにし、恐怖を感じたことを今もはっきりと覚えています。日本に帰国した後も、ペンシルバニア大学の2つのチームとは、テレビ会議によるカンファレンスと抄読会に参加させてもらっています。コロナウイルス感染の収束には数ヶ月先とも1年以上かかるとも言われていますが、いずれコロナウイルスに奪われた留学期間をとり戻せる日が来るよう、今はただ感染予防と拡散防止に努めていこうと思っています。



帰国時、人気のないフィラデルフィア空港の様子